



# やまもも



高宮八幡宮社報

水無月の

夏越の祓へ する人は

千歳の命 延ぶといふなり

高宮八幡宮

## 夏越祭・獅子まつり

6月23日(日)

夏越祭 14時より、  
獅子まつり 受付13時30分迄

災厄を祓い、無病息災を願い、平安を祈念する  
夏のお祭りです。ぜひご参加下さい。



### 今後の祭事

- ◆ 秋季大祭・夜神楽 10月20日(日)
- ◆ 注連縄つくり 11月予定
- ◆ 月次祭 毎月1日・15日 10時より
- ◆ 神道講座 毎月第一土曜日 14時より  
(6月1日は月次祭に引き続き実施)



〔社務〕 土・日・祝日 9:00~17:00  
平日 9:00~12:00 / 午後不定休  
〒815-0083 福岡市南区高宮4-9-34  
TEL・FAX 092-522-8435

<https://takamiyahachimangu.com/>



# 夏越祭・獅子まつり

6月23日(日)

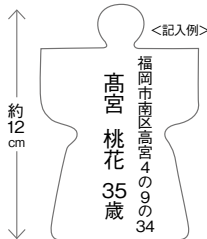
14時より雨天決行

(茅の輪くぐり・人形祓い・子どもみこし)

江戸時代から続く高宮八幡宮夏まつりを、今年も開催いたします。「夏越祭」と福岡市無形民俗文化財の「獅子まつり」を執り行い、災厄を祓って無病息災を祈願します。

## 夏越祭

世の平安と幸せを祈念する神事です。大祓詞を唱え、人形に住所・氏名・年齢を記入して病気や災厄を祓います。また、茅の輪をくぐって身を清め、無病息災を祈ります。人形は社務所で配布、またはお送りしております。記入後、封筒に納めて祈願料と共にご持参ください。



### 祓いの人形の記入方法

- ①人形に家族の名前・年齢(または社名・社員名、車のナンバー等)を記入します。足りない場合は連名で記入、もしくは自作ください。
- ②人形で身体を撫でるか、もしくは人形に息を吹きかけます。
- ③封筒に納めて、当日までに持参されるか、ご送付ください。祈願料の定めはございません。お気持ちにてお納めください。

※郵送の場合は現金書留にてお納めください。  
※初穂料五千元以上ご奉納で事前申込の方は、特別祈願を行い、お名前を記した御神札を謹製いたします。(お一人の場合は三千元より特別祈願いたします)



## 獅子まつり(子どもみこし)

福岡市無形民俗文化財

神事後、子どもたちが太鼓を鳴らしながら獅子神輿を担いで町内を練り歩き、無病息災と繁栄を祈ります。神輿と共に近隣の家やお店に「カドツケ」に訪れ、「家内安全、無病息災、イオーター(祝うた)」と声をかける伝統行事で、令和2年に福岡市無形民俗文化財に登録されました。



人形祓いの受付を済ませ、獅子まつりに参加して完歩した子どもたちには、ヨーヨーすくいや射的など、お楽しみゲームが待っています。ぜひご参加ください。

## 夏まつり ご奉賛のお願い

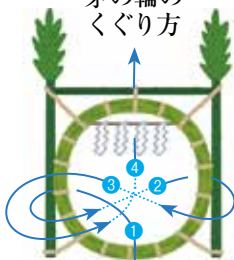
江戸時代より続いております高宮八幡宮夏まつりの継承に、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。地域のお祓いととも、子どもたちの心のふるさとづくりに貢献いただくと幸いです。

ご奉賛については社務所までお問い合わせください。

092-522-8435

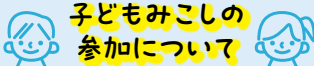


### 茅の輪のくぐり方



- ①左回り
  - ②右回り
  - ③左回り
  - ④お参り
- ⑤は省略可

### 子どもみこしの参加について



受付時間 13時~13時30分まで

■みこしに参加ご希望の方は、社務所で13時30分までに「人形祓い」の受付を済ませてください。

■人形のお祓いをお受けいただき、なおかつ、みこしを完歩されたお子様には、参加特典を用意しております。

■町内を約2km歩くので、歩きやすい服装でご参加ください。

### お楽しみのゲーム



### 獅子まつり参加して完歩



### ボランティアスタッフ募集

夏まつり当日13時からの獅子まつり運営で、ご奉仕いただける方を募集中です。詳しくは社務所まで。







### 花鎮祭のご報告

暖かい雨が新緑を濡らす4月、平安時代から続く病除けの国家祭祀・花鎮祭を斎行いたしました。地域の皆様が多く参加されるなか、本殿で今の時期の流行り病や心の病を祓い、大己貴大神と少名彦名大神に皆様の心身の健康を祈願。縁起物として「忍冬酒」のお神酒と、きゅうりの浅漬け、つつじの花の浅漬けをご用意しました。昔から悪いものを封じ込めるものとして「瓜」が使われており、花鎮祭できゅうりをいただくのは、いにしえの祭祀の名残です。今年もつつがなく花鎮祭を執り行うことができたことを感謝申し上げます。

### 【境内・摂末社紹介】 巡り大黒様と 迎え恵比須様

以前、高宮八幡宮に熱心にお詣りされている方から、「大黒様がお家に来てくれる夢を見て、仕事が順調になった」とお礼をされたことがありました。それからしばしば同じようなご報告が続く、ある宮司さんから聞いた話をふと思い出したのです。

その宮司さんは自宅で大黒様を祀っており、大黒様が氏子の家を訪ねて巡っている、という話でした。そして、「お蔭をいただいた氏子さんの体験が口伝で広まり、自宅にお詣りやお礼に来る方が増え、今は社務所で祀っているとのことでした。その話をきっかけに、当宮の大黒様も「巡り大黒様」としてお祀りするようになったのです。

日本における大黒様は、日本神話の神様・大国主大神と、仏法の守護神・大黒天(マハカーラ)



II シヴァ神  
が神仏習合したとされています。大国主は大己貴、ま

たは大物主ともいわれ、商売繁昌の福の神、縁結びの神、幽世の神(死後世界の守護神)とされています。当宮では大国主大神・大己貴大神をお祀りしています。商売繁盛や大漁をもたらす神と知られています恵比須様は少名彦名大神、事代主大神、蛭子神ともいわれ、当宮では事代主大神・少名彦名大神お祀りしています。恵比須様は足が悪いので願ひ事の際は「迎え恵比須様」とされ、「迎え恵比須様」としてお祀りするようになりました。

大黒天(大己貴)大神と少名彦名大神は、対をなす国作りの神様で、病気平癒の願ひ事をする神、加持祈禱の神ともされています。巡り大黒様と迎え恵比須様にお願ひ事をする作法は境内に掲示しているので、ぜひお詣りください。



### いまさら聞けない 神社の話

人形つて  
何ですか？

当宮の「夏越祭・獅子まつり」で恒例の、人形による大祓。願いを込める人形といえは、呪いの藁人形。が広く知られているかもしれないませんが、元来、人形は人を呪う(調伏する)ことよりも、身代わりとしてケガレや災禍厄難を背負わせるお祓いの道具として生まれたものです。

記紀(古事記・日本書紀)には伊邪那岐命と伊邪那美命が国産みを行った際に、一度失敗して生まれた蛭子を葦の船に乗せて海に流した記述があり、これがしきたりの起源とされています。

『源氏物語』の須磨の巻には光源氏がお祓いをした紙人形(形代)を船に乗せ、須磨の海に流したという著述があったり、陰陽道の儀式では金銀の人形を使ったことが記載されていたり。各地の遺跡からは木製の人形が出土しており、人形を用いたお祓いは広く浸透していたことが伺えます。ちなみにひな人形はもともと女子のお祝いとは無関係で、その原型は流し雛といつて人形に自分のケガレや災禍厄難を付けて流した事から始まったとされています。

### 神ことば

「御神歌集」から選んだ句を読み解きます。

病とは  
業と悪鬼と 身の不浄  
心の不浄 神の計らい

病の因果はさまざまで、本人や親・先祖の悪業、悪鬼・邪霊の障り、はたまた、神から与えられる病もあるとされています。病をきつかけに「己を顧みたり、死を意識したり」と「命の尊さ・生きる意味」といったテーマに直面する時は、深く心を磨き高められる良い機会であると心得ましょう。

世の中に  
つまらぬものは 人の知恵  
使うにつれて 世を乱しゆく

日本人は「世のため人のため」「慎み」といった、神代より受け継ぐ共存・調和の感性を大切に暮らしてきました。しかし政治・行政の腐敗、未来に対する不安・不信は今の日本の人心荒廃を象徴しています。今は広く私心を取り去り、神の智恵を虚心に求める必要があります。

ようこそお詣りくださいました



結  
婚  
式

### ◆ 神前結婚式のご案内

高宮八幡宮での神前式をご希望の方は、高宮庭園茶寮までお問い合わせください。

### ◆ 日々のお詣りに

近所の子どもたちが参拝くださいました。手水の使い方や参拝の作法を先生に教えてもらって、神様にお願いをすることをお伝えしてました。皆様も、日々のお詣り、心の安らぎにお立ち寄りください。



#### <お問い合わせ>

初宮詣・各種御祈禱は社務所まで。着付け、着物レンタル、カメラマンをご希望の方はご相談ください。  
☎092・522・8435  
神前式は高宮庭園茶寮まで  
☎092・710・1367

### ◆ 初宮詣

子どもが無事に生まれてきた報告と感謝を神様に申し上げ、お子様の健やかな成長を祈願いたします。

初  
宮



### ◆ 神様ごとのご相談

ご先祖を神として祀る(遠祖明神)

古くから神縁のあるご家庭で、「遠祖明神」を祀る祭祀を行ってまいりました。代々先祖を大切にされてきた家柄もあり、「しっかりとした形式で祀ることはできないか」というご相談があったからです。

「遠祖明神」は先祖のなかでも浄化を重ね、神様になって居られる方をご神体に鎮めて神として祀る作法です。つまり本来の意味での氏神を祀ることになりますので素晴らしい霊験を受けることとなります。

江戸時代では幕府によってこの祭祀は禁止されており、徳川家と一部の家柄の者だけに許されてまいりました。一家の隆盛に大きなお蔭があるとして、為政者を脅かす家が生まれぬよう、以降秘伝の伝承になっていったからです。なお、現在も鎮祭しているところは残念ながら聞いたことがありません。

この祭祀はどなたもすぐに行えるものではなく、神縁やご先祖の浄化などが必要です。当宮で家庭百日行を進めていくと、いずれはこの祭祀も可能でしょう。神道祭祀に関心がある方、または代々の繁栄をお考えの方はお問い合わせ下さい。

### ◆ 結びのことは

夏越の大祓はいよいよ祓いの本番。神道の真髄は「祓いに始まり祓いに終わる」と言われています。今年は新年から節分祭、4月の花鎮祭まで、祭祀を斎行する神職の感觸として厳しい稔ぎ祓いが続いていると感じます。

経済力に陰りが見えて久しく、国力は衰える一方です。社会保障制度の破綻、上がらない賃金、厳しい税制による低い可処分所得、外国資本の経済侵略など枚挙にいとまがないほど問題は山積みです。日本の正規雇用より海外でアルバイトをするほうが、倍の賃金を貰える若者が出稼ぎに行く時代となりました。

それでも国民・国家・日本のために何もしない政治家・役人は、まさしく神意に反し国に仇なす朝敵ですから、お祓いをお願いしなくてはならない時期に来ていると考えています。

公式祭典にて国家の危機をお祈りしたところ、ただ事ではない反応が続きました。自らの幸福、そして未来の子どもたちのために、日本の靈性を守り継承出来ますように、皆様と祈りある暮らしを提案していきたいと思っております。

宮司 古賀靖啓